

第19回男子アジア選手権

2020年1月16日～27日 クウェート

試合結果報告

1 月 21 日 (火)

JPN	VS	BRN(バーレーン)
10	前半	11
15	後半	12
25	合計	23

個人得点

No.	ポジション	名前	前半	後半	合計
3	RW	柴山 裕貴博			0
10	LW	杉岡 尚樹			0
12	GK	岩下 祐太			0
13	PV	笠原 謙哉			0
14	CB	北詰 明未			1
15	LB	部井久アダム勇樹			2
18	LB	成田 幸平			0
19	RB	徳田 新之介			3
20	RB	渡部 仁			1
21	LW	土井レミイ杏利			1
25	RW	元木 博紀			2
26	GK	久保 侑生			0
27	PV	玉川 裕康			0
29	PV	岡元 竜生			0
31	LB	吉野 樹			6
33	CB	東江 雄斗			9
合計			0	0	25

戦評

メインラウンド第2戦目はバーレーンとの試合。昨年10月に行われたオリンピックアジア予選で優勝を飾り、アジア代表としてオリンピック初出場を決めている強豪国であり、ダグル監督就任以降、公式戦では3度対戦して一度も勝利していない。

日本はGKに岩下、トップに東江、笠原をセンター、2枚目に渡部と吉野、1枚目に元木と土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣、攻守交代なしで攻守の切替えの速い展開を目指した。

試合開始早々、相手のポストへのパスをカットするもルーズボールを奪われてサイドに繋がれ、そのまま先制点を許す。日本は速攻やセットOFでチャンスを創出するも、ゴールポストに嫌われたり、相手GK21番ALIにセーブされるなどしてなかなかリズムに乗れない。さらに、バーレーンのキープレイヤーである99番ALSAYYADの個人技から失点を許すなど、苦しい展開が続くが、前半5分過ぎにGK岩下のファインセーブから速攻で東江が決めてようやく1点目。

その後は一進一退の攻防が続くが、前半15分過ぎに北詰のミドル、土井の速攻で連続得点し、6-5と逆転に成功する。部井久のディスタンス、東江の7mTで加点していくが、前半26分過ぎにはテクニカルミスからの連続速攻で逆転を許し、9-11と2点差をつけられてしまう。日本はここでタイムアウトを請求、直後に、東江の個人技で得点し、前半を10-11で終えた。

ハーフタイムではOFのポジショニングとDFについて再度チーム内で約束事を確認。また、日本でのメンタルトレーニングで共有したベンチメンバーを含めてのゲームへの入り方や気持ちを強く持ち続けること等々についても意思統一を図り、後半に備えた。

後半開始直後には、99番ALSAYYADの個人技で先制を許すものの、すぐさまクイックスタートから渡部が豪快にディスタンスを叩き込みリードを広げさせない。粘り強いDFを展開する日本は、一人退場のピンチも、相手フリーシュートをGK岩下がファインセーブ。直後に元木のサイド、再びGK岩下のファインセーブから吉野のミドルで3連続得点。14-13と逆転に成功する。その後一度はバーレーンに逆転を許すも、元木のサイド、東江の速攻で再び逆転。

後半16分からは吉野のカットイン、部井久の速攻、東江のミドルで再び3連取、この試合初めて20-17と3点のリードを奪う。バーレーンも必死に反撃、残り4分には1点差まで詰め寄られるが、吉野のミドルで再び2点差。残り1分、東江がテクニカルなスピッシュアウトを決め、直後にバーレーンのクイックスタートをGK岩下がファインセーブして勝負あり。25-23で勝利し、メインラウンド連勝を収めた。

この試合のMOMIには東江が選出された。

現アジア王者のバーレーンに対して勝利を飾ったが、この後に行われた試合でUAEが勝利したため、日本の準決勝進出・世界選手権出場権獲得はメインラウンド最終日まで持ち越しとなった。23日のUAE戦は、メインラウンド1位突破・準決勝進出に向けて気の抜けない重要な試合となる。

明日は休養日だが、次の試合まで十分なケアと休養を行い、万全の分析・対策を練った上で次戦に臨みたい。

報告記入者 :

舍利弗 学